

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

さわたりかんきょうをまもるかい

Vol.5 佐渡環境をまもる会(熊野市飛鳥町佐渡)の軌跡

多面的機能支払
熊野・御浜・紀宝



【水路沿いに咲くあじさい】

——植栽による景観形成にも取り組んでいると伺いましたが、状況はいかがですか
更屋——水路沿いにあじさいを植え、今年も綺麗に咲いてくれました。ですが、田んぼと同様に、イノシシやシカ・ウサギによる被害がありました。地区全体を獣害柵で囲っています。が、1か所だけ集中的に壊されて侵入される場所があったので、その部分の外側に追加で電気柵を設置したところ、被害はかなり少なくなりました。これからも丁寧な点検をしながら、壊れた部分はすぐに直したり、新たな対策を考えることで、被害のない地域を目指していきたいと思っています。ちなみにこれらの獣害柵は、大工をしているメンバーを中心としてみんなで設置したものです。

——他の組織との交流は進んでいますか
更屋——飛鳥町小阪で活動している平本郷溝組合(※)の桑原さんは、佐渡でも耕作をしていて、佐渡環境をまもる会のメンバーの一人でもあるので、よく情報交換をしています。他にも市内の組織の状況は耳に入ることが多いので、活動の参考になっています。
県内外でも、面積や構成員数・地理条件が私たちの組織と同じような他の組織と情報交換ができれば、大変参考になると思っています。



メンバーの特技を活かして

強い絆で愛するふるさとを守る

佐渡環境をまもる会
代表 更屋 好年さん

——美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく——

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。
本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。
今回は、飛鳥町佐渡で美しい故郷を熟練の知識と技術を用いて維持管理している、「佐渡環境をまもる会」を紹介する。

飛鳥町佐渡。ここは熊野市内の山間部に位置し、清流大又川の豊かな水で育てる水稲栽培が盛んな地域だ。山と山の間を吹き抜ける風が、眼下に広がる田んぼの青い稲を揺らしている。里山の原風景を感じられるこの地域には、都会から癒しを求めて訪れる方も多いそうだ。
心地よい風を感じながら、一面緑の田んぼのなかで、佐渡環境をまもる会の更屋さんにお話を伺った。

——田んぼの周りをとても綺麗に管理されていますね

更屋——ちょうど3日前にみんなで草刈り作業をしたところなんです。畦畔や法面の傾斜がきついところは、一人で管理するのは大変なので、みんなで協力して共同作業をすることで、地域の景観を守っています。ここから見える佐渡の農村風景は、何十年も前から、こうして守り、維持してきたものです。

——今後の展望についてお聞かせください

更屋——私は中学校の社会科教員をしていた経験から、飛鳥町の歴史についてまとめた本を制作する取組を進めています。昔の農機具や、農業の様子を写した写真もたくさんあるので、それらの資料を使いながら、農業や地域の変遷を後世に残していきたいと思っています。
また、地域の学校などと連携して、田植えや稲刈りといったその日限りの体験ではなく、植えた苗の管理から収穫までおいしい新米を食べるまでの一連の体験学習や、中山間地域ならではの体験ができるような取組もしていきたいですね。



【佐渡地区の農村風景】

——組織について教えてください

更屋——メンバーは、50代が1名、60代が5名、70代が9名と高齢化が進んでいます。みんな耕作には意欲的です。年に最低3回はメンバー全員で、水路や農道・休耕田の草刈りなどの共同作業をしており、日頃から感じている地域に係る様々なことや、一人ひとりの思いを話し合える貴重な交流の場にもなっています。活動を通じて農業者同士の関わりも深くなり、誰かが耕作できない年があれば別のメンバーが作るなど、助け合う体制もできています。

小規模な組織なので、できることは限られていますが、お互いの顔を見ることができて一体感があります。また、メンバー一人ひとりが多面的機能支払事業の目的や制度の内容についてよく理解しているので、合意形成が取りやすく良好な運営ができています。

■取材を終えて

リーダーである更屋さん自身、組織や地域のために積極的に新たな知識を得たり、新たな取組をする姿は、組織のメンバーだけでなく地域の人たちにも良い影響をもたらしていることだろう。

人口減少・高齢化が進むなかで、できないことを嘆くのではなく、できることを探し、前向きに取り組む組織としての姿勢に感銘を受けた。組織が小規模であるほど、メンバー一人ひとりにかかる責任は大きくなるが、その分「地域を守る」という思いは強く、深く、なかり、メンバー全員で同じ目標に向かって進み続けることができるのだと感じた。



【活動時の様子】

(※)平本郷溝組合はこのシリーズのVol.1で紹介した。

[Vol.1の記事]



組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
佐渡環境をまもる会	平成29年	約4ha (田)	農地維持支払 資源向上支払(共同)

取材：三重県熊野農林事務所 山口、福永(令和5年7月)
問い合わせ先：同所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)